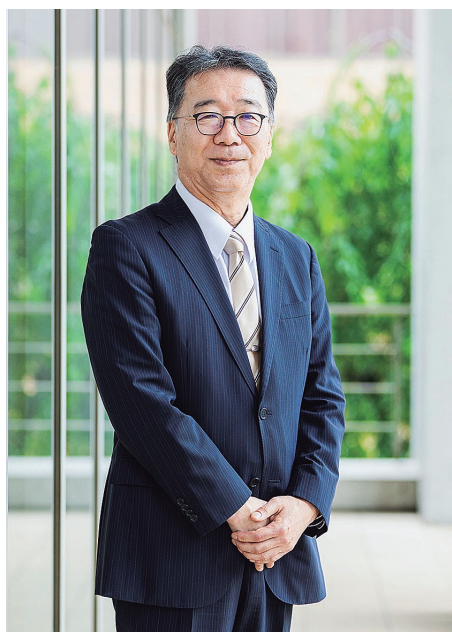


「プラスワン」で付加価値の高い豊かな学び 社会で活躍する女性を育てる、実践的な授業

十文字学園女子大学は、1922年に十文字ことが「教育を受けたと思う女性が1人でも多く学べる環境を作りたい」と創立し、その精神の元で、創立以来社会で活躍する女性を育てています。キャンパスは緑豊かで、教職員と学生との距離が近く、学生たちは伸び伸びと学んでいます。

**地域企業と連携し商品開発
就職支援を手厚くサポート**

本学は「プラスワン」という



安達 一寿 学長

あだち・かずひさ／1988年東京学芸大学教育学部卒業。90年同大学院教育学研究科修士課程修了。同年4月十文字学園女子短期大学に助手として着任。その後十文字学園女子大学社会情報学部助教授、准教授、教授を経て2025年4月より現職。博士（教育学）。

言葉ブランドコピーとして使っていますが、もともとは十文字の「十」が「プラス」とも読めることから始まりました。専門知識だけでなく、付加価値となる能力や経験を身につけてほしいという願いと、学生一人ひとりが「ワン」であり、全員を大切に育てるという思いが込められています。

プラスワンの学びにはいくつかあり、そのひとつが、社会連携推進センターが中心となって活動している、大学外でのプロ

ジェクトです。たとえば食品開発学科の学生が地元企業と協力しビールやカレー、コーラなどの食品を開発。同学科にとどまらず、他学科の学生がパッケージデザインを担当するなど、学科を超えた学びにも広がっています。さらに地元のイベントに参加するなど、社会連携活動も強化しています。もうひとつが専門科目に加えて学びをプラスする、全学生対象の「共通科目」の導入です。「対自分」「対他者」「対社会」の3つのカテゴリーで構成されており、外国語や芸術、保健体育、データサイエンス、キャリア教育、総合科目など広い分野が網羅されています。さらに本学の特徴として就職支援のサポートが手厚く、学修支援センターでは教員採用試験対策や公務員試験対策を実施しています。また担任制度を設けており、学業や進路などの相談に、きめ細かく応じています。

**改革でさらに教育の質向上
女子大で主体性を育成**

教育の質の向上のため、27年度を目標に教育改革を進めています。学生満足度の向上、生涯にわたって活躍できる能力の育成、実践志向の強化などを柱とし、学部・学科の再編を検討しています。さらに「副専攻制度」を導入しAIやDX、女性の生き方に関する講座を充実させます。男女共同参画が進んでも、日本のジェンダーギャップ指数は国際的に見て依然低い状況です。女性は学業に真面目に取り組む傾向があり、女子大には励ましながらお互いを高め合う環境があります。また女性が積極的に行動するため、主体性の育成にも有利です。女性の能力を引き出すためにも、女子大は必要不可欠な存在であると確信しています。



緑豊かな武蔵野の地に立つ新座キャンパス

